

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

(評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【記入方法】

- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
 項目番号23 ○初期に築く本人との信頼関係
 項目番号24 ○初期に築く家族との信頼関係
 項目番号25 ○初期対応の見極めと支援
 項目番号26 ○馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 ○事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
 項目番号53 ○身だしなみやおしゃれの支援
 項目番号59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援
 項目番号60 ○お金の所持や使うことの支援
 項目番号61 ○日常的な外出支援
 項目番号62 ○普段行けない場所への外出支援
 項目番号63 ○電話や手紙の支援
 項目番号64 ○家族や馴染みの人の訪問

【用語について】

- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 もも太郎さん 坂下

(ユニット名) _____

記入者(管理者)
氏名 内川 礼子

評価完了日 21 年 2 月 28 日

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員が、自分自身や家族が施設に入所した場合を想定し、「自分だったらこうして欲しいという思い」を会議で出し合い、理念を作り上げた。	理念を遂行できるよう月1回のミーティング時に確認している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有のため掲示し、毎日の引継ぎ時に唱和し確認している。	○ 月の目標を掲げ、職員同士の意識向上に努めている。職員全員が目標を達成したか、月1回の全体ミーティングで確認している。理念を支援にどのように生かしていけばよいのか今後も検討が必要。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族に理念をお伝えしていなかったため文書でお送りした。生活の様子は月1回お便りや写真でお知らせし面会時にもお伝えしている。運営推進会議では、地区代表の方に取り組みの内容を説明し、理解していただけるよう努力している。	○ 年度初めの区会に参加することになっているので、地域の方にも理念を説明・理解してもらい、気軽にお付き合いができるようご説明していく。
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	施設周囲を歩く人が少ないのが現状。ホームの畑仕事など、通りがかった近所の方との挨拶や会話はある。行事があるときにはお声かけして参加していただけるように努めている。	○ 昨年も季節の行事を計画し、近所の方にも声がけし、一緒に参加していただいたので今後も同じように参加のお声掛けをしていく。近隣との付き合いをどのようにしていくか継続して検討していきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	季節ごとの行事に老人会や子ども会に参加していただき、交流することができた。(区費を支払っている)	○ どのように交流を図っていくか今後の課題。行事等への参加を促しながら交流をはかっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>区会を通して地区へ個別に訪問しパンフレットをお渡しするなど、地域の方々に更なる認識をしていただけるようにしていきたい。まだまだこれからの検討事項と考えている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>質の向上のため、評価内容を真剣に受け止め検討、改善、実施していきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		<p>日常生活の様子などを知っていただける機会の会議を行うなどして現状を知っていただくようにしたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>会津方部グループホーム連絡協議会参加。職員も研修に参加できるようにしていきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>学習の機会を常に意識していきたい。</p>
	<p>○虐待の防止の徹底</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	<p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>自宅で入居前に虐待の疑いがあった方がいなかったこともあり学習の機会を持っていない。今回この評価内容にあったので、資料を配布した。</p>	<p>事業所内で見過ごしているということは無い。そのような行為を発見した場合には報告するようにと指導している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項等をわかりやすく説明している。不安・疑問点については、理解・納得のいくまで対応している。退居にあたっては各機関と連携をとり生活が継続できるよう家族の方への説明をしている。	○	職員一同、ご家族の来所時にはお声かけし、様子を説明したり意見を伺うように努めている。今後もご家族との信頼関係はもちろん、各機関との連携に努めていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別ケア、その人らしさを重視し、個人の意向を大切にしている。	○	日常生活の中での不都合なことをすぐに解消するなど、今後の運営に反映できるようにしていきたい。ご家族の来所時に、ご本人からの不満等の訴えがあるか必ず確認している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	受診結果の報告や日常の変化などは、そのつど速やかに報告している。また、月1回個々の暮らしぶりについて文面にて報告をしている。面会時にも報告を行っている。	○	さまざまな報告については、速やかに行っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者から苦情があった場合は職員同士情報を共有し、迅速に対応できるよう努めている。苦情受付担当者も重要事項に明記している。	○	面会時必ず意見を聞く機会を設定している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々業務の中でアイデアを提案しているほか、毎週のミーティング、全体ミーティングの中でも意見を出してもらうようにしている。管理者は運営者と定期的に意見交換の場がある。組織内で各委員会があり、そのつど意見交換を実施している。		運営者からの意見を職員に伝え理解していただくように今後も努力が必要。職員からの意見を反映することも今後も努力していく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出や通院付き添いなど家族の方の代行を行っている。		職員は柔軟な対応に協力している。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の退職もあったが、高齢であり精神的な不安定を防ぐために、職員同士が統一して同じ答えを伝えるようにしてダメージにならないように配慮している。</p>		<p>聞かれたときにどのように答えるか・・・状況によっては難しいが、詳しい話はしないようにしている。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強会や研修会で必要と思われる研修には、勤務を調整して参加を確保している。</p>	○	<p>2年目になるのでOJT, OffJTを積極的に取り組んでいきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>勉強会に参加し情報収集した。</p>	○	<p>当社の他施設の職員との情報交換をする機会があり良い刺激になっている。今後は、地域の勉強会などにも参加していきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の親睦を図る行事に経費を費やしてくれたり、管理者の悩み・問題等を解決してもらう会合を設定してもらっている。</p>		<p>支援や業務への意見がしやすい環境を作りたい。そのために、お互いに意見を聴く姿勢が大事。認知症介護の中で起こる支援の疑問についても意見を言い合える状況を作りたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>将来どのような資格取得を希望しているのか職員にアンケートをとって随時話をしている。勤務割作成時の希望休を導入している。</p>	○	<p>資格や勤務状況など随時意見を確認している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている (小規模多機能居宅介護)		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている (小規模多機能居宅介護)		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている (小規模多機能居宅介護)		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している (小規模多機能居宅介護)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人が望む生活を支援するよう心がけている。しかし、そのときの状況によって何をしたいか変化があるので、無理強いしないように家事や手芸などの活動を共にし、利用者の方から教えていただいたり、楽しんでいただいたりしている。ソファで話をしながら歌を聴き昔話をしたりすることも多い。	○ 受容・傾聴を常に心がけ、業務優先でなく、利用者様主体の関係作りに努めているが、今後もその姿勢を大事にしていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	機会のあるごとに、情報交換、共有化を心がけ連携し、本人を共に支えるような関係の維持に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時間の制限を設けず、自由に入出りできる体制を行っている。	○	短期間の外泊の奨励。遠方の家族、面会者の方の来所時には一緒に食事をしていただいたり、施設への宿泊を勧めるなど、絆を大事にしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの美容院へ希望される方もいますので送迎している。家族と連携し、馴染みの生活習慣の継続した支援を心がけている。		町のスーパーに買い物に行ったり、天候の良い日にはドライブに出かけている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員と一緒に調理に・掃除に参加してもらったり、利用者さん同士で洗濯物をたたんでいただいている。そういった際利用者さん同士が会話できるよう配慮している。		利用者様同士で居室のいったり来たりがあったり、お互いを思いやる中で職員に声かけして下さったりという配慮がある。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係機関、知り合い等から情報が入ったときには職員で共有している。		今後も同じようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援状況から職員同士の情報を密にしている。センター方式の一部を導入し、本人の意向・把握に努めている。	居室担当を決めてかわわりを持っている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしぶりや、趣味などを本人との会話の中で把握するとともに、必要があれば家族の方からも聞き取りを行っている。	自宅が心配と、家に行きたいとの希望がある場合など、ドライブを兼ねて自宅までいくことがある。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式一部を導入など、利用者自身が、暮らしやすい生活の場となるよう努めている。	できることの喜びを利用者の方と共感するとともに、有する能力が役割とし喜んでいただけるよう支援していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当者を中心にケースカンファレンスを継続的にかつ内容のあるものにし、介護計画に反映できるよう努めている。	情報の交換を行い、情報の共有化に努めたい。
	○現状に即した介護計画の見直し		

グループホーム もも太郎さん 坂下 自己評価

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	<p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者の計画の確認と、改善を職員全員の意見を出し合い進めている。</p>	<p>見直しが必要と思われる時は、本人の状態を確認し、家族との連携を密にして行っていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別にケースを記録している。又、申し送りノートやミーティングで意見交換し情報を共有しており、介護計画に結びつくよう努力している。</p>	○	<p>今後も学習しながら知識を深めて意見交換できるようにしていきたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)</p>			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>必要な場合に民生委員さんに相談したりしてきた。</p>	○	<p>知っていただくことから初めて各種関係機関とどのような面で協働できるか学習していきたい。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>必要なサービスについて検討しながら支援している。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議にて、情報交換をして連携体制の再確認を行っている。退所希望の方や自宅に帰りたくて歩いてしまう方が居るので随時情報提供している。</p>		<p>今後も協力していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診記録を作成し連絡事項を書くことにより適切な医療を受けられるように支援している。医師によるインフォームドコンセントが職員にも、家族にもある。		受診の際、受診記録簿を記入し受診内容が把握できるようにしている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	坂下厚生病院および入居者のかかりつけ医との連携をとっている。		
45				
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会に出来るだけ行くようにしている。又その際に状況を確認するとともに、SWとの連携を図りながら早期退院の話し合いを行っている。		サマリーの交換をし、情報を得ている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では対応者は居なかった。	○	ターミナルケアについて、標準化されたケアが出来るよう、勉強会等を開いていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		○	ターミナルケアについて、標準化されたケアが出来るよう、勉強会等を開いていきたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族は反対したがご本人の強い希望で退居となった。地域包括支援センターと居宅介護支援事業所と情報交換して退居となった方が居る。	○	入居しても、自宅に帰れるだけの状況になるのは良いことととらえ、日々の業務支援をしていきたい。
<p>取り組みを</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	生活歴や価値観を大切にし、利用者の方が呼ばれたい名前で対応したり、会話はゆったり、丁寧にするよう、心がけている。		個人情報についての書類は、注意し保管している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別に対応することにより馴染みの関係を作り、利用者の方が話しやすい環境を作ることによって、より一層安心した暮らしを支援する。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクや調理、清掃等の参加に呼びかけはするが、本人のその時の意思を尊重し、無理じいすることはない。		利用者に合わせた職員体制をとっており、本人本位の対応に心がけている。
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)	本人の希望を家族に伝え了解のもと本人が望むところにいけるよう支援している。		希望に添った対応ができるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方や職員に食事の味付けやバランスなどについてお聞きし参考にしている。また、職員は一緒にテーブルで食事をしており、配膳・下膳においては、可能な利用者の方とは、一緒に行っている。	手作りおやつを提供している。また、極力季節・行事・誕生会に合ったものを提供差し上げている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は選択して頂き提供しいつでも要求に応じられるようにしている。お酒については、疾患にもよるので、医師の指示のもと、少量は楽しんでいただいていたが、ご本人の希望がなくなり現在は提供していない。	嗜好にあわせ外食も実施している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	記録をとり、排泄パターンに沿って支援している。	現状を維持できるよう心がけている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日に入浴を実施している。希望があれば、夕食後の入浴も実施している。入浴できない方は、足浴を実施している。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ベットだけでなく、畳の部屋を作るなど、個々に合わせた生活の場を確保できるよう努めている。	寝ることが出来ない状況の際は、居室やホールでおちつかれるまで対応を行っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	畑の作業や収穫に自分の出来る事を楽しみに感じられている方もいるので一緒に行っている。収穫等がむずかしい方には、後始末に参加されるよう支援している。野菜切りなどもできることをしていただいている。	○ できることをやっていただき役割を失わないように配慮していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>買い物に出かけたり、必要物品が購入できるよう、配慮している。お金の所持は、ある人と無い人がいるが、不自由が生じないよう配慮している。</p>	<p>預かり金については、報告している。</p>
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>その日、その時の気分や体調などを考慮しながら、天候にもあわせて出来るだけ、要望が実現できるよう努めている。</p>	<p>外出担当者がいるので、当日の希望でも対応できるようになっている。話し合いの介護をしている。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>おすしなどの外食やスーパーへの買い物、仏像見学などに出かけた。</p>	<p>家族や地域の方にも声がけをし、一緒に参加できるようにしていきたい。</p>
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>希望があればいつでも電話を掛けられるようになっている。</p>	<p>月に1回ホームから個人個人の生活状況を書いたお便りを送付している。</p>
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）</p>	<p>面会にいらした方には、お茶やお菓子をお出しし、利用者のお部屋でゆっくりお話をさせていただいている。</p>	
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日常は鍵を施錠していないため、玄関を出られる時は、職員と一緒に付き添っている。</p>	<p>危険性を感じる場合は、動作が落ち着くまで見守り、声がけにて安全性を保つ。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日常は鍵を施錠していないため、玄関を出られる時は、職員と一緒に付き添っている。		帰宅要求が強い方が居る場合の対応については今後も検討して配慮していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	巡視をこまめに行い、安全確認をしている。		利用者との距離をあまり空けないようにしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬は職員が管理し誤薬がないようにしている。		日用品などの不足分については、家族に連絡し準備していただいている。申し出により、準備させていただく場合もある。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の声がけの徹底で注意を払っている。居室をこまめに巡視している。事故報告書を確認しお互いにリスクを回避するようにしている。		職員は、利用者の方の姿が見えるよう、背を向けない位置に座り、常に目配り、手配り、気配りを心がけている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急連絡網、応急処置マニュアルの作成はしている。定期的な訓練の必要があるが実施できなかった。		定期的に訓練をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	9月に避難訓練を実施した。		3月に予定している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>利用者様の状態や危険予測など考慮し。環境整備を行い、安全確保ができるよう努めている。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日定時にバイタルチェックを行い、異変に気づけるようにしている。異変に気づいたときは、報告し記録や申し送りで情報を共有し、受診を検討している。</p>	<p>体調の変化・異変については速やかに家族に連絡をしている。 受診前・受診後の結果を家族に連絡している。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>ホームで管理し職員がその都度手渡し、確認をしている。薬のファイルを用意しており、いつでも内容を確認できるようにしている。</p>	<p>薬剤師との連携をとっているため、いつでも質問できる状態にあるので、安心である。また、薬手帳の活用をしている。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>排便の有無を聞き取りしている。忘れてしまう方の場合にはトイレに行った後に確認チェックしている。水分補給は1日1300ccを目安に飲水をしていただくように援助している。間食時に使用する砂糖をマグネシウム入りになっている。</p>	<p>暖かい日には散歩を勧めたり、入浴時に腹部マッサージを勧めている。</p>
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>介助の必要な方へは支援を行い、自立の方については、自主性に任せている。</p>	<p>ご本人様の施行が困難なときには、各食事後に入れ歯洗浄を職員が行っている。</p>
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食の摂取量を個別にチェックしている。食事の時間は制限することなく各自のペースに合わせて食べていただいている。水分は、お茶の時間2回・各食事の際・入浴後・その他摂取量に応じてお出ししている。</p>	<p>高齢者が多いので、夜間は居室で水分が摂れるように準備している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	玄関に手指消毒液を置いている。室内では手洗い・うがいの励行。調理場にはいるときは職員・利用者の方も手洗いと消毒を実施。		予防接種を受けている。物品の清潔操作の徹底および手洗いの徹底を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日勤・夜勤時の調理器具の消毒、高温殺菌（食器乾燥機使用）。手洗いと消毒の習慣化。また、冷蔵庫の整理等も毎日夜勤で行っている。		食材は、毎日必要量のみ配達してもらっている。賞味期限の確認、居室での食べ物の確認を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を植えたり飾ったりしている。		建物周囲の囲いも低くし閉鎖的にしていない。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間はテーブルとソファがありどちらでも過せるようになっている。クリスマスツリーや鏡餅、雛人形など季節を感じる事が出来るように飾り付けしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では自然と定位置ができています。その反面、お互いに位置を意識しあわないで座ることを勧めあつたりする光景も見られる。利用者同士が居室に出入りし、会話をされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や道具、趣味のものなど置いたり、心地よくよく自分らしく過ごせるように工夫している。		今まで使用していたものを持込していただいている。帰宅願望のある方はどうしても家にあるものを持ってきたくないという方もいるが、そのような方にも馴染みのものがあつたほうがよいのか今後検討していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度や湿度を随時確認している。換気は毎朝の清掃の時間や昼食時に実施しており、ホールの換気は随時行っている。		暖房の温度調節とお茶による内部の霧吹き、および洗面器の水により夜間も常時湿度が保たれるように配慮している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全性を配慮し、生活能力の維持、自立性を認識した工夫を支援している		個々の残存機能を把握し、自立支援を行っていききたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	心がけて見守りしたり声かけしている。		できる限り自立した生活のなるように配慮していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑には野菜を植え、草取りをしたり、水の世話をしていたりと、作業を通じ楽しんで活動をされている。また、プランターに季節折々の花を植え観賞していただいている。		施設周囲の土手や裏手の手入れをして、花を植えたりしていきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他 ()
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他 ()
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他 ()
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他 ()

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他 ()
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ⑤その他 ()
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他 ()

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)